

Ⅲ 検討テーマ（地域課題）の審議と取組について

1. 検討テーマ1 「絆を深めて支え合う防災体制づくり」

第4期1つ目のテーマは、第1回運営部会での審議を受け、今期は防災、子育て、魅力発信の3つの候補の中から、東日本大震災の経験が風化しないうちに取り組むべきであるとして、「絆を深めて支え合う防災体制づくり」を1つ目のテーマとして審議を行うこととしました。

(1) 検討テーマの現状及び課題の把握・取組事例

平成24年10月24日に開催された第2回区民会議では、身近な防災対策の説明や、自主防災組織の地域での活動を知るため、活発な活動を継続している2組の事例を紹介してもらい、意見交換を通して課題を探りました。

1) 中原区を取組

① 「備える。かわさき」などの配布

区では、各個人、家庭での防災対策や、地域の防災災害に対する日頃の備えなどを掲載した『備える。かわさき』を配布しています。また、外出時の防災必携マニュアルとしてポータブル版も配布しています。

② 自主防災組織の支援

自主防災組織とは、地域に住む皆さんが協力し合い、その地域の安全を守るため組織されたものです。災害時に効果的な活動ができるよう、訓練、備蓄等を行っています。また、訓練等活動に対して助成金制度などにより支援を行っています。

③ 中原区地域防災計画の改定

中原区では、住民の皆様にとって身近な災害予防、災害応急対策を定めるため、「中原区地域防災計画」を作成し、これを基に、安全・安心な地域生活環境の整備を図っています。東日本大震災を受けて、市が各種防災関係計画の見直しを行ったことに伴い、24年10月に中原区地域防災計画も見直しを行いました。

2) 地域での取組事例

■ ザ・コスギタワー 自主防災組織

高層マンションでの防災については、停電時にはエレベーターが使えないため、トイレが深刻な問題になることや、防災資機材は色々あるものの、ほとんどの人が使い方を知らないなど問題点があります。

ザ・コスギタワーでは、自分たちで勉強しながら1年がかりで防災マニュアルを作り、そのダイジェスト版を配布しています。また、5フロアを1ブロックに分けて、災害時の初期の安否確認訓練をしたり、ブロック単位で知り合いを増やし交流するフロア交流会などを行っています。さらに、防災備品の購入や、イベントを活用した防災備品の試用も行っていきます。



第2回区民会議での塚本委員の事例紹介

■ 井田協友会

町会活動では、マンションとどのように付き合いかが大切であり、コミュニティ形成を進めることが、防災意識の向上にも繋がります。

井田協友会では、マンション住民と連携する工夫として、防災訓練を共同で行ったり、マンション住民から自主防災組織の役員も出してもらおうなどの取組を進めています。

また避難所運営訓練を行い、町会でお金を出し合って、避難所の消耗品等を購入していたり、災害時要援護者の情報を民生委員やマンション管理人などで共有するなどの取組も行っていきます。



第2回区民会議での
井田協友会松本会長の事例紹介

■ 中学校でのDIG

中原区内の中学校では、中原消防署と「DIG Disaster (災害)、Imagination (想像力)、Game (ゲーム)」を開催しています。グループに分かれ、大きな白地図を囲みながら、地域の特徴や、地震で起こりそうな被害を想定して、地図に書き加え、それに対する対応や対策を話し合っていく訓練です。



中学校でのDIGの様子

3) 第3期の主な取組

■ 防災紙芝居の実施

区民会議の審議を受け、中原区役所では、市民提案型事業として、なかはら防災紙芝居を実施しました。

これは、地震や津波に対してどのような備えが必要かについて、紙芝居を用いることで、子どもにもわかりやすく解説し、親子で防災へ関心を持ってもらおうというものです。区役所毎年恒例のイベント「子ども未来フェスタ」でも実施し、多くの子どもがクイズに答えながら、楽しく防災について、学んでいました。

この紙芝居は、区民の皆様イベント等で活用してもらうため、区役所で貸し出しをしています。



「なかはら防災紙しばい」の実施の様子



「なかはら防災紙しばい」

■ 防災ネットワークエリアマップの配布

区役所では、区内の自主防災組織との協働により、区内防災拠点である市立中学校を中心に8つの地区に分けた防災マップ「防災ネットワークエリアマップ」を作成しました。東日本大震災を契機に防災に関する意識は向上したものの、若い世代の住民など、災害時の自分の避難場所・避難所・給水拠点などを知らない人が多くいます。そこで、主に若い世代の親子が利用する保育園やこども文化センターなどにマップを配布し、掲示することによって、避難所等への認識を高めてもらいました。



マップの
配布と掲示

■ 子育て情報ガイドブックへの防災情報の掲載

区役所子ども支援室が毎年発行している子育て情報ガイドブック「このゆびと〜まれ!」に防災に関する情報を掲載したページを設け、子育て中に必要となる防災知識を広めています。

区民会議で実施した「地域における子育て応援体制づくり」アンケートでは、子育て情報の入手方法は、このガイドブックからという回答が最も多かったです。子育て中の保護者への情報伝達手段として、ガイドブックは非常に有効でした。



子育て情報ガイドブック
「このゆびと〜まれ!」

4) 課題

準備会議、第1回・第2回区民会議、第1回運営部会で委員から出された審議テーマに関する意見と課題を整理しました。

委員の発言内容	抽出した問題点	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・親子で防災を学ぶため、第3期で作成した「なかはら防災紙しばい」を活用したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識は震災を契機に高まっているが、さらなる向上が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな世代に向けた防災情報の発信が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の住民にとっては、町内会・自治会（≒自主防災組織）の仕組みも理解しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人市民の方に、情報が行き届いていない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人市民の方に配慮した情報提供の検討が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄の問題が行き渡っていない。商店街と連携して備蓄品をPRできるのでは。 ・個人の備蓄は震災を契機に充実してきているが、まだ不十分である。 ・避難所には限りがある。自助が大切だと認識してもらう必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での食料、水、簡易トイレなどの備蓄、家具の固定が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・減災の考え方や備蓄に関する普及啓発が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるリーダーの充実が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に地域で主体的に判断して動ける「リーダー」となる人は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内のリーダーをどのように発掘するか、防災に興味を持つ方と地域をどのように繋げるかの検討が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・日中で親がいないときに災害が起こることを想定した防災訓練であれば、若い世代の関心を集めることができるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中に震災が発生すると、共働き家庭の親は帰宅困難になり、子どもたちだけになってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の力を活用するなど、子どもだけで被災した時の対策の検討が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・より現実に即した防災訓練を行う必要がある。 ・防災資器材は自主防災組織で配備しているが、ほとんどの人が使い方を知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練で使用する道具が家庭に無いものばかりなど、訓練の内容が現実に即していない。 ・防災倉庫などの備蓄品や防災設備を知らない、使えない住民が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭にあるものを活用した防災訓練など、現実に即した訓練が必要。 ・防災備品や設備の確認、試用が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な取組を行っている自主防災組織の取組事例を発信してはどうか。 ・自主防災組織と町会、民生委員が連携した防災訓練が必要。 ・地域住民の交流が進むことで自主防災組織も機能をより発揮できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織が地域で取り組んでいる内容は、地域によって差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間での格差の解消に向けた取組が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅の防災対策がよくわからない。 ・住民間のネットワークづくりを通じた防災対策を行いたい。 ・大型マンションで行ったフロア交流会は満足度が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションでは、停電によってエレベーター、トイレ、要援護者の救護が特に問題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理組合（自主防災組織）単位での備え・安否確認・被災後の支援体制づくり ・マンション同士の助け合い体制づくり ・近隣住民同士の連携方法の検討が必要

(2) 審議内容

第1・2課題調査部会、第2回運営部会等での意見交換を行い議論を深めて、課題解決に向けた方策を検討しました。部会で委員から出された意見の一部をご紹介します。

防災情報の発信について

《区役所に防災情報コーナーを設置する》

- 防災情報を集約するという取組案があるのが良い。
- 区役所1階に防災情報コーナーを設けて、区ホームページ上に集約しては。
- 情報コーナーは常設では目新しさが無い、メリハリをつける必要もあるのでは。

《区民の転入時に情報を伝える》

- 転入手続きを行う際に、防災関連のパンフレットを配布できればよい。
- 外国籍の方にも専用の資料を配布したらどうか。

《身近な防災資機材の紹介》

- 給水施設等の案内だけではなく、より身近な場所にある防災資機材を知ってもらう取組してもよいのでは。区民が自由に使えないものが多いのであれば、マップに実は地域にこういうものがあるという紹介をコラムのような形とするのも良い。

《その他》

- 情報発信については、防災に関する資料は既に作成されているので、それをどのように知ってもらうかが課題である。
- 就学児童の保護者は学校を通じてさまざまな情報が入るが、未就学児の保護者には情報が入りにくいので対策が必要ではないか。

災害時に地域での活動を担える人材を発掘するための防災イベントの実施について

《防災イベントの開催》

- 災害時に地域での活動を担える人材を発掘するため、イベントを開催してはどうか。
- 開催に当たっては、中原区の地域特性をふまえる必要があるのでは。
- 内容は、災害図上訓練(DIG)や講座などが効果的では。
- 平成25年8月31日に中原区が会場となる川崎市の総合防災訓練があるため、プレイベントのような位置づけで、その前に実施したら良いのでは。
- 区民会議委員がそれぞれ所属している団体等のメンバーを出し合い、その人たちで交流を深めることが必要ではないか。
- 行政機関や商業施設が集積している駅周辺がどうなるかをシミュレーションした訓練の方が、一自主防ではできない取組なので、やってみたいと思う。
- 区民会議には各団体から委員が出ているので、団体同士のつなぎ方を考えて、取り組むことができるのではないかと思う。マンション住民と周辺の町内会・自治会が日頃からつながっておくことが必要である。また、企業に関しては、周辺の町内会・自治会と助け合いながら、避難者の受け入れなども考えられる。

自主防災組織の活動内容について

《先進的な自主防災組織の活動を紹介する》

- 自主防災組織の先進的な活動を紹介することで、区内全域の自主防災組織に広がれば良いのではないか。
- 事例を紹介することで、気づきが生まれたり取組の弱いところを刺激できるのでは。

防災意識の向上について

《中学生の防災意識の向上をはかる》

- 中学生に一番災害時の対応力を身につけてもらいたい。
- 今現在、中学校の授業で災害図上訓練(DIG)を実施しているのであれば、この授業の前後の時間をつかって、地域と連携できる取組を提案していけばよいのではないか。

《子育て講演会の開催をする》

- 子育て講演会で防災についての講演会を行いたい。

《防災紙芝居の取組を普及させる》

- 第3期で行った防災紙芝居にまた取り組んだらどうか。
- 「なかはら防災紙しばい」を作成したが「マンション編」がなかったと思うので作成してみてもは。
- 前期からの継続なので、それほど労力をかけずに実施出来るのでは。

大型マンションの自主防災組織結成について

《自主防災組織を結成していない大型マンションを調査する》

- 小杉駅近隣のマンションでも自主防災組織が無いところがある。可能であれば100戸以上のマンションには自主防災組織を結成してもらうようメッセージを発したい。
- 100戸以上のマンションに対する自主防災の意向調査は是非やっていただきたい。

災害時に必要な情報を記すリーフレットなどの作成について

《既存のリーフレットを活用する》

- 既存のリーフレットに備蓄品の有効期限も記録する。
- 災害用の携帯カードについては、新しいものを作るのではなく、今まであるものに情報を追加するようにすべきであろう。

その他

- やさしいにほんご版「そなえる。かわさき」は外国人が理解出来るような表現の検証が必要ではないか。
- 災害時には消防団が活躍するが定数不足解消に向けた取組が大切である。
- 小杉でもマンションが連携して防災に取り組めれば理想的である。

(3) 課題解決に向けた取組事項

部会における審議を受けて、「絆を深めて支え合う防災体制づくり」の具体的な取組事項をまとめました。

取組内容		具体的な実行方法（解決策）	
地域・区民・区民会議の取組	防災情報の発信	区役所内に防災情報コーナーを設置	●区役所1階などに防災関係のパンフレット等を集約した、防災情報コーナーを設ける。なお、設置は3月11日や防災の日（9月1日）の前後に期間を区切るなど、メリハリをつける。また、集めた情報をWeb上でも併せて集約し、区役所ホームページ上でも見られるようにする。
		区民の転入時における情報伝達	●転入手続きを行う時に、中原区の防災情報を配布する。外国籍の方には、「そなえるかわさき」（やさしいにほんご版）、「防災マップ（中原区版）」及び「やさしいにほんごきょうてんりすと（なかはらく）」を配布する。
		身近な防災資器材の紹介	●公園などの身近な場所に整備されている防災資器材などを広報紙のコラムなどで紹介する。
	災害時に地域での活動を担える人材を発掘するための防災イベント実施		●災害時に地域での活動を担える人材を発掘するため、地域特性を踏まえた防災イベントを開催する。イベント内容は、災害図上訓練（DIG）や講座などを候補として検討し、時間設定は参加しやすいものとする。 実施時期は、中原区が実施する総合防災訓練の前とし、総合防災訓練の「プレイベント」のような位置づけのものとして開催する。
	防災意識の向上	中学生の防災意識向上	●中原消防署が実施する災害図上訓練（DIG）などの防災教育の成果を発信し、取組をさらに推進していく。
		子育て講演会の開催	●子育て中の母親に防災の心構えを伝えるため、防災に関する子育て講演会を開催する。
		防災紙芝居の普及	●第3期区民会議の取組として作成した防災紙芝居をさらに普及し、区内での活用を図る。
	自主防災組織の活動内容の普及		●先進的な活動をしている自主防災組織の事例を区内に広く伝える。
	大型マンションの自主防災組織結成推進		●中原区内の100戸以上のマンションのうち、町内会自治会未加入かつ自主防災組織未結成のマンションを調査する。調査結果を踏まえ、対象マンションの管理組合に自主防災組織結成に対する意向調査を行う。
	災害時に必要な情報を記すリーフレットなどの作成		●既存のリーフレットなどを活用し、災害時に必要な情報を普段から書き留めておくことができるようにする。

実行主体	実施スケジュール				
	25年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	26年 1～3月
区民会議 区民、行政	情報の収集	コーナー設置 情報の収集		コーナー設置 情報の収集	コーナー設置
区民会議 区民、行政	資料準備	配布開始			
区民会議 区民、行政	手法の検討	実行組			
区民会議 区民、行政	企画検討準備		イベント開催	市総合防災訓練	
区民会議 区民、行政	実行組				
区民会議 区民、行政	企画検討	講演会開催			
区民会議 区民、行政	実行組				
区民会議 区民、行政	手法の検討		実行組		
区民会議 区民、行政	マンシヨン調査	意向調査		調査結果に基づく取組	
区民会議 区民、行政	手法の検討		実行組		

区民会議で取組報告・検証